

結核・感染症サーベイランス事業におけるウイルス検査

【微生物科】

結核・感染症サーベイランス事業の22対象疾病について県内10検査定点から採取した検体についてウイルス分離した。

検体受け入れ状況を表1に示した。検体数の多い順に感染性胃腸炎258検体、インフルエンザ様疾患168検体、乳児嘔吐下痢症121検体、ヘルパンギーナ119検体、無菌性髄膜炎105検体である。

分離状況は表2に示した。887名1032検体中ウイルス分離陽性となったのは228名(25.7%)、229検体(22.1%)で分離ウイルスの種類は24種類であった。以下本年度の特徴的なものについて述べる。

1 感染性胃腸炎、乳児嘔吐下痢症からA群ロタウイルスがもっとも多く検出されたが、分離率は16.9%と低く今後SRSV、アストロウイルスなどについて検索する必要がある。

2 ヘルパンギーナから12種類のウイルスが分離されコクサッキーA2型、6型が多く検出された。2型は中部地区、6型は東部地区で分離され地区による違いが見られた。

3 インフルエンザウイルスはA香港型とB型ウイルスの混合流行で流行前期はA香港型、後期はB型で患者発生にも1月に大きなピークと3月にやや小さなピークを認めた。

4 アデノ7型ウイルスを本県ではじめて分離し、疾患名は感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱である。

5 無菌性髄膜炎はエコー7型ウイルス、コクサッキーB4型ウイルス、ムンプスウイルスを検出したが検出率が低いこともあり、今後はPCRの併用も必要と思われる。

表1 疾病別検体採取状況(1996年度)

1996. 4 ~ 1997. 3

臨床診断名 (疑いを含む)	1996年										1997年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
麻疹様疾患	1	7	4	3	3	1	3				4	1	27	
	1	7	4	3	3	1	3				4	1	27	
風疹	1			1							9	7	18	
	1			1							9	7	18	
水痘		5	1	3	2		3	4	4			1	23	
		5	1	3	2		3	4	4			1	23	
流行性耳下腺炎	5	11	5	11	12	6	11	6	3	5	2	1	78	
	5	9	5	10	12	5	11	6	3	4	2	1	73	
百日咳様疾患				2			2						4	
				2			2						4	
溶連菌感染症	2				2								4	
	2				2								4	
異型肺炎														
感染性胃腸炎	32	23	12	31	44	12	7	13	38	7	13	26	258	
	26	18	11	26	36	9	6	11	31	7	11	21	213	
乳児嘔吐下痢症	48	19	7	3					2	9	11	22	121	
	35	11	5	3					2	7	8	17	88	
手足口病	1	1			2	1	2	6	5			3	21	
	1	1			2	1	2	6	5			3	21	
伝染性紅斑						2		2	6	3		3	16	
						2		2	6	2		3	15	
突発性発疹		3							1		2	2	8	
		3							1		2	1	7	
ヘルパンギーナ	2	7	27	41	16	15	7	1		1		2	119	
	2	7	27	40	15	13	7	1		1		2	115	
インフルエンザ様疾患									5	128	28	7	163	
									5	124	28	6	163	
MCLS(川崎病)		4		2	2	1	2	1	7		1	2	22	
		4		2	2	1	1	1	3		1	2	17	
咽頭結膜熱	2	1		4	2	1		3	3		3	4	23	
	2	1		3	2	1		3	2		3	4	21	
流行性角結膜炎			2	1		1	2						6	
			2	1		1	2						6	
急性出血性結膜炎												1	1	
												1	1	
無菌性髄膜炎	5	7	10	11	17	11	9	14	14	2	1	4	105	
	3	4	7	6	8	6	6	7	8	2	1	3	61	
脳、脊髄膜炎		1							2				3	
		1							2				3	
陰部ヘルペス	2	1		1			1	2					7	
	2	1		1			1	2					7	
尖圭コンジローム														
計	101	90	68	114	102	51	49	54	88	155	74	86	1032	
	80	72	62	101	84	40	44	45	70	147	69	73	887	

(注) 上段は検体数、下段は患者数を示す。

表2 疾病別ウイルス分離状況(1996年度)

1996. 4 ~ 1997. 3

臨床診断名 (疑いを含む)	ウイルスの種類																				計									
	アデノ 1型	アデノ 2型	アデノ 3型	アデノ 5型	アデノ 7型	インフルエンザA 香港型	インフルエンザB	エコー 7型	コクサッキーA 2型	コクサッキーA 4型	コクサッキーA 5型	コクサッキーA 6型	コクサッキーA 10型	コクサッキーA 16型	コクサッキーB 2型	コクサッキーB 3型	コクサッキーB 4型	コクサッキーB 5型	ヘルペス 1型	ヘルペス 2型		ポリオ 1型	ポリオ 2型	ムンプス	ロタ	C群ロタ	麻疹			
麻疹様疾患																										4	5			
風疹																														
水痘																														
流行性耳下腺炎																	2	2						4	4			6	6	
百日咳様疾患																														
溶連菌感染症																														
異型肺炎																														
感染性胃腸炎	1		2		1												3	1							24			32	32	
乳児嘔吐下痢症	3	1				2															1				37			44	44	
手足口病					1								1				1											3	3	
伝染性紅斑															1													1	1	
突発性発疹		1																										1	1	
ヘルパンギーナ		1	1	1	2				25	1	1	16	2	2	2	5	3											60	60	
インフルエンザ様疾患						58	2																					60	60	
MCLS(川崎病)																														
咽頭結膜熱			1		1	1	2										1	1											7	7
流行性角結膜炎																														
急性出血性結膜炎																														
無菌性髄膜炎								3									5							1					9	8
脳、脊髄膜炎																														
陰部ヘルペス																					1								1	1
尖圭コンジローム																														
計	4	3	4	1	5	61	4	3	25	1	1	16	1	2	1	2	17	2	4	1	1			5	61		4	229	228	

(注) 上段は検体数、下段は患者数を示す。